

(別紙)

『畜産業振興事業の実施のために独立行政法人農畜産業振興機構からの補助金の交付により造成した基金の管理に関する基準』に基づく報告・公表資料

1. 基金の概要 (平成21年度)

基金の名称	加工原料乳生産者経営安定基金
法人名	社団法人中央酪農会議及び指定生乳生産者団体
基金額 (機構補助金等相当額)	7,915百万円 (5,972百万円) (平成21年4月1日現在)
基金事業の概要	加工原料乳価格が補てん基準単価を下回った場合に加工原料乳の生産者に補てん金を交付する。

2. 見直し結果 (平成21年度)

項目	講ずる措置	
実施した見直しの概要	基準に適合するよう事業を実施	
基金事業実施時期	平成21年度まで	
次回の見直し時期	—	
基金の保有割合	算出した保有割合は1.0であった。算出に用いた方式及び数値については、以下のとおりである。	
基金の保有割合の算出	(算出に用いた方式) 保有割合 = 直近年度末の基金額 ÷ 事業が完了するまでに必要となる事業費及び管理費  (算出に用いた数値) 直近年度末の基金額 : 7,915百万円 事業が完了するまでに必要な事業費及び管理費 : 7,869百万円	
使用見込みの低い基金等の取扱いの検討結果	使用見込みの低い基金等の該当の有無	無
	—	
	(使用見込みの低い基金等に該当する場合の検討の結果) —	
その他	本基金は中央酪農会議の管理の下、同会議及び指定生乳生産者団体 (10団体) が基金を一体的に保有している。	

(別紙)

『畜産業振興事業の実施のために独立行政法人農畜産業振興機構からの補助金の交付により造成した基金の管理に関する基準』に基づく報告・公表資料

1. 基金の概要 (平成21年度)

基金の名称	広域生乳需給調整基金
法人名	社団法人中央酪農会議
基金額 (機構補助金等相当額)	1,790百万円 (1,790百万円) (平成21年4月1日現在)
基金事業の概要	天候要因等の予期せぬ需要変動等による地域的な生産の過不足に対応するため、生乳需給状況の検討を行うとともに、需給緩和となった場合に乳製品等の調整保管等を行うほか、生産者団体等が実施する共同負担による余乳処理対策を実施する。また、生産者団体が四半期単位で実施する、牛乳の値上げによる消費減に伴い飲用牛乳向け用途が減少し、その他向けが増加した生産者団体に対するとも補償を支援する。

2. 見直し結果 (平成21年度)

項目	講ずる措置	
実施した見直しの概要	基準に適合するよう事業を実施	
基金事業実施時期	平成21年度まで	
次回の見直し時期	—	
基金の保有割合	算出した保有割合は0.6であった。算出に用いた方式及び数値については、以下のとおりである。	
基金の保有割合の算出	(算出に用いた方式) 保有割合 = 直近年度末の基金額 ÷ 事業が完了するまでに必要となる事業費及び管理費  (算出に用いた数値) 直近年度末の基金額 : 1,790百万円 事業が完了するまでに必要な事業費及び管理費 : 2,785百万円	
使用見込みの低い基金等の取扱いの検討結果	使用見込みの低い基金等の該当の有無	無
	—	
	(使用見込みの低い基金等に該当する場合の検討の結果) —	
その他	—	

(別紙)

『畜産業振興事業の実施のために独立行政法人農畜産業振興機構からの補助金の交付により造成した基金の管理に関する基準』に基づく報告・公表資料

1. 基金の概要 (平成21年度)

基金の名称	広域生乳流通体制確立基金
法人名	社団法人中央酪農会議
基金額 (機構補助金等相当額)	247百万円 (247百万円) (平成21年4月1日現在)
基金事業の概要	統一的な乳量測定等の検討等及び国際化の進展を踏まえた生産構造の研究。統一的な乳量計及びサンプラーのミルクタンクローリーへの設置

2. 見直し結果 (平成21年度)

項目	講ずる措置	
実施した見直しの概要	基準に適合するよう事業を実施	
基金事業実施時期	平成21年度まで	
次回の見直し時期	—	
基金の保有割合	算出した保有割合は1.0であった。算出に用いた方式及び数値については、以下のとおりである。	
基金の保有割合の算出	(算出に用いた方式) 保有割合 = (直近年度末の基金額 - 既返還額) ÷ (事業が完了するまでに必要となる事業費及び管理費)	
	(算出に用いた数値) 直近年度末の基金額 : 247百万円 既返還額 : 27百万円 事業が完了するまでに必要な事業費及び管理費 : 220百万円	
使用見込みの低い基金等の取扱いの検討結果	使用見込みの低い基金等の該当の有無	無
	—	
	(使用見込みの低い基金等に該当する場合の検討の結果)	
その他	—	